

平成27年度第1回村上市地域密着型サービス運営委員会 会議録

1. 開催日時：平成27年7月28日（火）午後1時30分から午後2時40分

2. 開催場所：村上市役所 第5会議室

3. 出席者：（※敬称略）

【出席委員】佐藤芳男、田巻清美、高橋 茂、佐藤清八、佐藤 栄、渡辺理恵子、木村直昭  
7名

【欠席委員】なし

【事務局】介護高齢課 富樫課長、木村課長補佐、志田係長、小池主査

4. 会議次第

1. 開 会

2. あいさつ 佐藤会長

3. 報告

（1）地域密着型サービス運営委員会について（事務局：説明）

【質問・意見】

○委 員：他市でもこのような仕組みになっているか。

○事務局：ほとんどの市町村で平成18年に地域密着型サービスができた時から、地域密着型サービス運営委員会と地域包括支援センター運営協議会の二つの委員会ができたとする。

（2）地域密着型サービス事業の運営状況について（事務局：説明）

【質問・意見】

○委 員：一人暮らしで、どうしても自宅で生活ができなくなったとき、これだけ待機者がいるといつ入所できるのか。

○事務局：この待機者の後になるということではなく、その人の事情によって、入所の優先度が変わるので、今の待機者が全ていなくなってからということではない。

○委 員：退所するというはどのような例があるか。

○事務局：グループホームの場合は、入院のために退居する方が一番多い。昨年度は1名が自宅に戻った。

○委 員：実際、入院している人で、待機にはなっているが退院後すぐに入れるのか。

○事務局：その時の空き状況にもよるが、ショートステイなど在宅のサービスを使いながら待っている方は結構いる。

（3）平成28年度・平成29年度村上市地域密着型サービス等事業所事前協議事業者公募要項について（事務局：説明）

【質問・意見】

○委 員：選定委員は何人か。

- 事務局：副市長、介護高齢課長、福祉課長、都市計画課長、政策推進課長の5人。
- 委員：これまでの応募状況は。
- 事務局：前回は地区の指定はしないで村上市全域が対象。ミニ特養については4業者、グループホームは25年度が7業者、26年度が8業者の応募があった。
- 委員：応募しようとする業者の動向は。
- 事務局：密着型の事業所は基本的に市内の業者と考えているが、ほかの事業、ショートステイで新潟市の業者が建設中で、市外の業者も多少入ってきていると思っている。
- 委員：職場が増える、働き口が増えることからすれば良いことかと思うが、就業するかどうかはわからない。
- 委員：未整備地区ということで、山北地区と神林地区となっているが、未整備という以外に理由があったら聞きたい。
- 事務局：特養の待機者数について山北地区が多い。村上地区は人口が多い分待機者数も多いが、他地区への入所や他のサービスも結構あり、当面様子を見てもいいのではないかと考えた。
- 委員：山北地区の状況を地元の方からお聞きしたい。
- 委員：山北地区から離れた所への申込みは控えたいという方もいる。実際に担当していると待機者数も減ってきている感じもするが、すぐに入所できる状態ではない。事業所が応募しても職員が集まらないかもしれないと思うので、その辺総合的に整備していく必要があると思う。
- 委員：29床では採算が取れないのでは。山北地区ではショートステイの確保に苦労している。神林地区は立地面からもいいし、利用者負担も考慮した多床室は良いと思う。
- 委員：見通しが甘かったということにならないようお願いしたい。
- 委員：新しいショートステイを計画しているということだが、具体的な情報はないか。
- 事務局：緑町地内で定員38人、居宅介護支援も併設し、12月頃開設予定と聞いている。
- 委員：胎内市で開設した施設で職員が集まらなくて、定員一杯受け入れられなかったという情報がある。山北地区の場合もそういう状況が想定される。当施設でも介護士の募集をしてもほとんど集まらない。
- 委員：グループホームを整備した場合の補助金は。
- 事務局：昨年度までは国から交付金をもらって市から事業者へ交付していたが、今年度から県に基金を作りそこから補助金を出すというふうに仕組みが変わった。基金の要綱が8月頃の予定で今のところわからない状況。

#### 4. その他

平成27年度介護保険運営協議会等の予定について（事務局：説明）

【質問・意見】 特になし

#### 5. 閉会